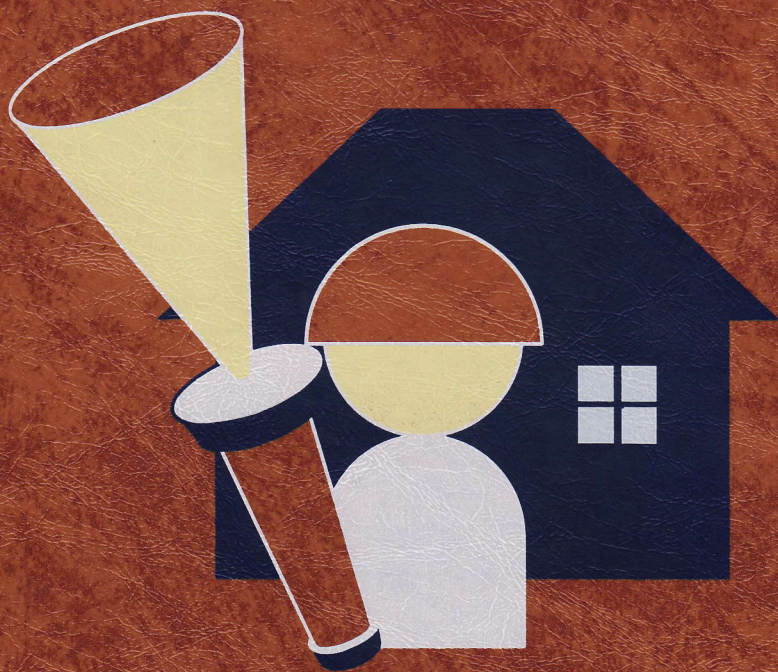


家庭の防災知識

編集

家庭防災研究会



新日本法規

大声で火事を知らせる

火事に気付いたら、まず大声で「火事だーっ」と叫ぶことが、火災の被害を少なくするポイントです。消火や避難も「火事だーっ」と叫びながら行いましょう。

まず大声で「火事だーっ」と叫ぶ

皆さんの家庭で火災が発生したと



き、まず何をすればよいでしょうか？

消火？ 避難？ 子供を助ける？

一一九番？

いえいえ、どれも違います。火災が発生したとき、あなたがまずしなければならぬのは「大声で火災が発生したことを周囲の人に知らせる」ことです。

あなたが火災に気付いたときの状況は、様々なはずです。目が覚めたら煙に取り巻かれていた、という場合もあります。変な臭いがするので隣の部屋に見に行ったら、アイロンがくすぶっていた、という場合もあります。揚げ物をしていて、ついその場を離れたら油に着火してしまった、という場合もあります。火をつけたまま石油ストーブに給油してこぼれた灯油に火が着いてしまった、という場合もあります。

●まず大声で「火事だーっ」と叫べば被害は小さくなる



あなたが火災に気付いたときの火災の状況次第で、消火すれば消せそうな場合もありますし、避難するのがやっと、という場合もあります。

しかし、どんな状況であっても、共通して「まずしなければならぬこと」は、「火事だーっ!!」と大声で叫ぶことなのです。消火する場合も、すぐに避難しなければならぬ場合も、「火事



火 災

だーっ」と叫びながらすればよいので
す。

大声で叫ぶことは案外難しい

大声で叫ぶことなど簡単そうに見えますが、案外できない人が多いのです。最近では住宅事情などもあって、普段の生活で大声を出す機会がなくなってしまうためではないか、と言われていきます。三二人の犠牲者を出したあのホテルニュージャパンの火災（昭和五七年二月）でも、火災を最初に発見した従業員は、その場では声を出さずにフロントに戻って火災の発生を知らせています。このとき、大声で火災の発生を客に知らせながら消火器や消火栓の準備をし、フロントへの連絡は部屋から顔を見せた客に頼むなどの行動をとっていれば、その後の展開は随分違ったものになっていたに違いありません。

「火事だーっ」という声が聞こえれば、周囲の人は、助けに行くこともできますし、子供やお年寄りなどを避難させることもできます。火災を発見し

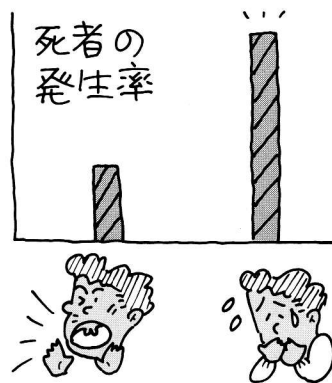


たあなたがパニックにかられて一人で右往左往しながら消火を試み、どうにもならなくなってから初めて助けを呼んだり避難したりするのに比べれば、はるかに賢い方法であることはお判り頂けると思います。

大声が出せれば被害は小さい

火災時の行動と被害状況を調べた調査などでも、火災を見つけたときに「大声で知らせることができた」場合には、死者の発生率も焼損面積も「できなかった」場合に比べてはるかに小さい、ということが知られています。

「恥ずかしい」とか「大したことな



く終わったら周囲に迷惑をかける」とかいうのは「平常時」の感覚です。しかし、「火災」というのは、「平常時」から一転「非常時」に投げ込まれたということなのです。

平常時の常識を捨て、火災を見つけたらとにかく大声で「火事だーっ」と叫ぶことを頭の中に入れておくようにしてください。

一一九番通報を上手にするには

自宅で火災が発生した場合も、近所で火災が発生した場合も、必ず行わなければならないのが「一一九番通報」です。この一一九番通報が早く適切に行えたかどうかでその火災の被害の程度が大きく異なってしまうことがあります。一一九番通報のポイントを覚えておきましょう。

「どこで」が最も大切

一一九番通報をすると、まず「火事ですか、救急ですか」と聞かれ、続いて住所を聞かれます。これは、消防の側からすると、消防車を出場させるのか救急車を出場させるのかという情報が必要らしいこと、次に「どこに」出場させるのかという情報が必要だと

言っているわけです。

えきちゃんと通報できれば一応合格点なのですが、これがなかなか難しいので



火災になると、ただでさえあわてますし、まして自分が火災の当事者の場合には気が動転していますから、自宅の住所ですら度忘れしてしまつて思い出せないケースが少なくありません。

電話のそばには、必ず自宅の住所を

● 一一九番は住所を正確に言うことが必要

メモして置いておくようにしたいものです。なお、最近はコードレスフォンも増えて来て、「電話のそば」が決まらない家庭もあるかも知れません。コードレスフォンの場合は、受話器に短縮ダイヤルのメモなどと一緒に、自分の住所と電話番号を書いた紙を張っておくとよいのです。

後は消防の質問に答えればよい

通報を受けた消防の側では、住所の確認の後、「燃えているものは何ですか」「そばに目標となるものはありますか」などと聞きます。この質問にはわかる範囲で答えればよいのです。

燃えているものを聞くのは、普通の戸建て住宅火災なのか、デパート火災なのか、危険物を取り扱っている工場



火 災

が火災なのかなどで、出場させる消防車の種類や台数が大きく異なるからです。

また、目標物を聞くのは、通りすがりの人からの通報でその住所がはっきりしない場合などに有効な情報だから聞いているのです。自宅が燃えていて住所が聞き出せている場合などは、目標物は「念のため」の情報となるわけです。もちろん出場中の消防隊員にとっては、「〇丁目〇番地」などというよりも「〇〇小学校のそば」などという方が、行き先としてわかりやすいのは当然です。

通報はだぶってもよい

近所の火災などでは、一一九番通報をしようとして、「もう誰かが通報しているかも知れない」と思いとどまってしまう方が少なくありません。皆がそんなことをしていたら、結局一一九番通報が遅れて思わぬ大火に発展してしまうこともありえます。「一一九番通報はだぶってもよいからためらわずに」行うことが大切です。

通報を受ける消防側には、少し大きな火災になると同じ火災について何十件という通報が次々に入ってきます。

消防としては、これが同じ火災についての通報なのか、連続放火事件などで同一地域に幾つもの火災が発生しているのか、を見分けなければなりません。そのためにも、住所、燃えているもの、目標物についての正確な情報がほしいのです。「通報をためらう」ような方なら、火災を少し距離をおいて見ることでできる立場でしょうから、客観的に正確な情報提供をできる可能性があります。決して通報をためらうことはありません。

公衆電話は種類によってかけ方が違う

普通の加入電話なら「一一九」を回せば通報できますが、公衆電話は種類によってかけ方が違います。かけ方は下図のとおりです。こんなややこしいことを覚えなければならぬ方がおかしいのです。本来は統一すべきなのですが、とりあえず現実はどうなっている

のですからやむをえません。よく見ると公衆電話のそばに一一九番のかけ方が書いてありますから、「種類によってかけ方が違う」ということを頭に入れておいて、その場で読んで一一九番してください。



公衆電話で119番をかける方法

一一九番通報に関する誤解

「火事を見つけたら一一九」というのは、日本人の常識です。でもちょっと待ってください。実際に通報される一一九番の内容を見ると、皆さんは随分と誤解をしているようです。

火災が発生した住戸からは

一一九番しない

「火事ですッ。早く来ててくださいッ。家が燃えてしまうッ。早く、早く、あつあーっ！」などという絶叫が一一九番の指令センターに入ってくる場合があります。この方は、自分の家が火事になって、自分の家から一一九番をしているのです。火のまわりが早かったのか火事に気付くのが遅かったのか、とにかく通報中のこの方が火や煙に襲われてしまったのです。

この方は2つの誤りをしています。

一つは「火事を見つけたらなるべく早く一一九」という常識にとられ過ぎで、最も手近な自分の家の電話で一一九番をしてしまったことです。こんなことをすれば、火のまわりが早ければ火や煙に巻かれて、通報しているうちに危険が迫ってしまうのは当然です。「まず避難して一一九番は安全なところから」と考えてください。

- 一一九番は安全な場所から
- 消防車はすぐ来ない

消防車はすぐ来ない

もう一つの誤りは、一一九番しさえすれば目の前にすぐ消防自動車や消防隊員が現れる、と錯覚していることです。そんなことはありません。日本の消防は「八分消防」と言って、通報から平均八分以内に現場に駆けつけて消防活動を開始できるように整備され

